

No.826 2012年3月19日

ARIBの動き

## ARIB / GISFI / TTC 共催ワークショップを開催 「IoT / M2M & Future Radio Access」

ARIB、TTC 及びインドの標準化フォーラムである GISFI\*は、初の三者共催となるワークショップを開催致しました。(\*GISFI : The Global ICT Standardization Forum for India)

- 1 日時 : 2012年3月12日(月)、10:00~17:00
- 2 場所 : ARIB 会議室
- 3 参加者 : 85名
- 4 ワークショップ概要 :

IoT (Internet of Things) は「モノのインターネット」と定義され、M2M (Machine to Machine) コミュニケーションを包含する概念と捉えられています。本ワークショップでは、将来の IoT/M2M の市場とサービスに対応するネットワーク及び無線アクセス技術について、GISFI 創設議長であるデンマーク・オールボーグ大学の Ramjee Prasad 教授以下 GISFI のメンバーと、ARIB、TTC からの各分野を代表する専門家が参加し、最新の研究動向、標準化動向等の紹介を行いました。また、今後の日印間コラボレーションの可能性、有効性について、活発な意見交換を行いました。

当日は ITU-R Deputy Director である Fabio Leite 氏も挨拶に訪れ、ワークショップ来場者との間で熱心な情報交流を行いました。



ARIB / GISFI / TTC 共催ワークショップの様子と Ramjee Prasad 氏

5 プログラム :

内容 (講演者)
<b>Opening</b>
Welcome address (一般社団法人電波産業会 常務理事 佐藤孝平氏)
Opening remarks from ITU (Mr. Fabio Leite, Deputy Director of Radiocommunication Bureau, ITU)
Opening remarks & Introduction to GISFI (Prof. Ramjee Prasad, Founding chairman of GISFI)
<b>Session 1: Standardization activities in India</b>
Standardization and Industrial cooperation between Japan and India (Dr. Ir. Anand R. Prasad, NEC Corporation)
Relationship between CTIF-Japan and India in the area of IoT (Dr. Shingo Ohmori, President of CTIF-Japan)
<b>Session 2: Overviews on technology (Part 1)</b>
Overview of IoT (Ms. Soma Bandhopadhyay, Tata Consultancy Services, India)
Technical requirements (Mr. Krishna Sirohi, GISFI Technical coordinator)
<b>Session 3: Overviews on technology (Part 2)</b>
R&D trend (Prof. R. V. Raja Kumar, President of Rajiv Gandhi University of Knowledge Technologies, Hyderabad, India)
<b>Session 4: R&amp;D/Standardization activities on IoT/ M2M</b>
IoT/M2M standardization activities in ITU-T (日本電信電話株式会社 後藤良則氏)
M2M standard activities among SDOs (KDDI 株式会社 古賀正章氏)
Network technologies on IoT/M2M (三菱電機株式会社 横谷哲也氏)
<b>Session 5: R&amp;D/Standardization trends on Future Radio Access</b>
A Proposal of Future Radio Access Technologies for IoT/M2M (株式会社 KDDI 研究所 小西聡氏)
Further LTE Enhancements toward Future Radio Access (株式会社 NTT ドコモ 中村武宏氏)
<b>Session 6: Panel discussion</b>
Panel Discussion (コーディネーター : Prof. Ramjee Prasad、パネリスト : 上記各講演者)
<b>Closing</b>
Closing remarks (一般社団法人情報通信技術委員会 代表理事専務理事 前田洋一氏)

参考: ARIB と GISFI は 2009 年 10 月 19 日に、また TTC と GISFI は 2011 年 8 月 22 日に、それぞれ情報通信技術に関する情報交換、学会やイベントへの相互参加など連携可能な活動を共同で推進する基本合意書 (LoI : Letter of Intent) を締結しており、今回のワークショップはその LoI に基づき開催されたものです。

## 光無線通信システム推進協議会（ICSA）の解散について

光無線通信システム推進協議会（会長 羽鳥 光俊 東京大学名誉教授、国立情報学研究所名誉教授）は、平成 8 年 7 月の設立以来、光無線通信システムが果たすべき役割を多角的に検討し、その標準化、普及促進に向けて積極的な活動を続けてきましたが、本年度末をもって解散することとなり、3 月 9 日に歴代の役員、幹事、会員にも参集いただき協議会解散式を行いました。

当協議会はこれまで、以下のような様々な活動を行い、多くの成果をあげ、光無線通信システムの普及促進に大きく貢献してきました。

- 1) 光無線 LAN の標準規格の策定（ARIB STD-T50 ver.4）
- 2) レーザ安全ガイドライン、光無線導入ガイドライン等の作成
- 3) IEC/TC76 委員会とのリエゾン活動や JIS 化への寄与
- 4) 国等の機関の各種研究会への参加や提言活動、研究開発提案とそのサポート活動
- 5) セミナーやシンポジウム、HP を通じた広報・普及促進活動
- 6) 各種関連団体との連携活動

その結果、現在さまざまな分野で光無線通信システムの応用と利用の拡大、更なる研究開発が行われつつあります。

その反面、当協議会が関与すべき新たな注力分野が捕らえ難くなってきており、参加社各位の関心を一定方向に集めることが難しい状況にあり、また会員数も減少傾向にありました。

このような状況を踏まえ、幹事会において協議会活動の今後について検討、審議を進めた結果、協議会活動を平成 23 年度末で収束させる方向で意見が集約され、昨年 7 月 15 日開催の協議会総会において、本年度末をもって当協議会活動を終了することが議決されました。

なお、今後は活動の場を、光技術関係の企業・団体・研究者等の集まりである特定非営利活動法人 日本フォトニクス協議会（JPC）（理事長 羽鳥 光俊 東京大学名誉教授、国立情報学研究所名誉教授）の内部に新たに設置される“ICSA”の名前を冠した専門委員会に移行し、規格類の改定作業を含めて従来同様の活動が継続される予定です。



代表幹事  
若森 和彦 氏



東京大学名誉教授  
羽鳥 光俊 会長



初代幹事  
佐々木 弘忠 氏

電磁環境委員会 副委員長 戸田 善文

(富士通株式会社 モバイルフォン事業本部  
知財・アライアンス戦略統括部 シニアエキスパート)



2011年6月に電磁環境委員会の副委員長を拝命しました、富士通の戸田でございます。

2006年から調査研究部会に参加し、緊急テーマとして特別会費による委託研究“携帯電話電波の脳細胞に及ぼす影響について”が最初の活動でした。特別会費の社内稟議書作成のためいろいろ勉強し、“企業の社会的責任として、事前に安全性を確認する義務がある”ことを上司に説明し苦勞して承認を得たこと、そして2年間の研究成果で“携帯電話電波が脳細胞に影響を及ぼす証拠は得られなかった”と報告され安堵したことが強く印象に残っています。

1997年から継続して、業界として自ら科学的確認を行なうべく専門研究機関に対し20テーマの委託研究が実施されてきました。その結果、これまでのどの研究においても電波が人体に悪影響をおよぼす結果は得られていません。

2011年5月、世界保健機関(WHO)の組織下にある国際がん研究機関(IARC)は、“携帯電話やTV・ラジオ放送などに用いられる電波のヒトに対する発がん性評価を実施し、グループ2Bと分類した”と発表しました。これを受け、“業界の統一見解”をホームページ(HP)にタイムリーにアップし、多くの方々に閲覧して頂いています。

野島委員長から、本年度からの活動方針として、約15年間継続してきた各種の“携帯電話等の電波の人体影響に関する研究”は、ほぼ終息し節目の時期に来ている。今後はIARCの発表を受け、“リスクコミュニケーション”を活動テーマに追加して、間違った情報の氾濫を防ぐため、科学的根拠に基づいた正しい情報の周知・広報(講演会開催、書籍、HP等)を業界自ら積極的に展開していく必要があることが提言されました。最近、従来の携帯電話に加えスマートフォンの登場、LTE、WiMAX・・・のサービス開始により、高速で多種・多様な情報通信サービスが増加し、さらに非接触充電も可能になるなど電波利用は益々一般ユーザの身近な存在になって、“リスクコミュニケーション”の必要性を実感しています。

今後とも、電波の安全・安心な利用のため、電磁環境委員会の活動に尽力する所存ですので、皆様宜しくお願ひします。

## 編集後記

お彼岸の到来とともに、真冬のあの厳しい寒さは遠のいていきます。もうすぐ春ですねえ、ちょっと気取ってみませんか♪の歌が聞こえてきます。(T.K.)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
http://www.arib.or.jp E-mail arib\_news@arib.or.jp